

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 87人

② 算数 87人

5 留意事項

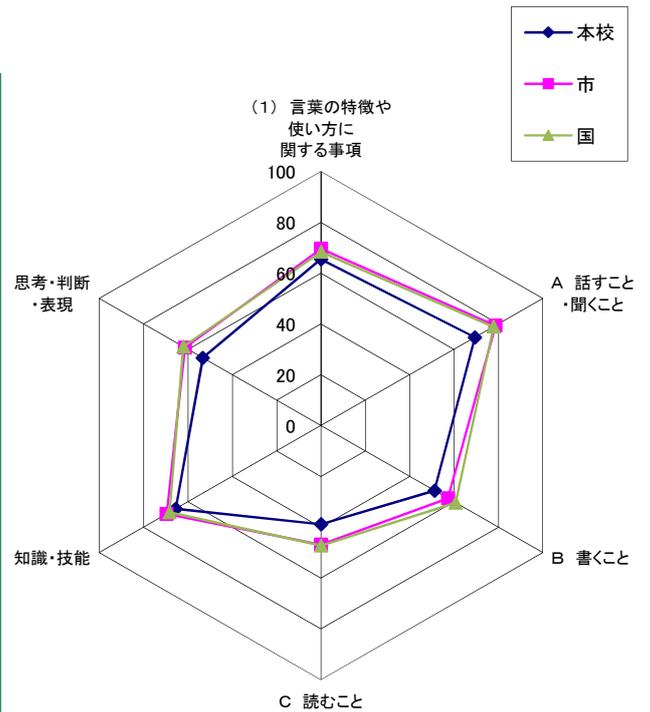
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.5	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	69.4	78.7	77.8
	B 書くこと	51.2	57.3	60.7
	C 読むこと	38.8	46.9	47.2
観点	知識・技能	65.5	69.6	68.3
	思考・判断・表現	53.3	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

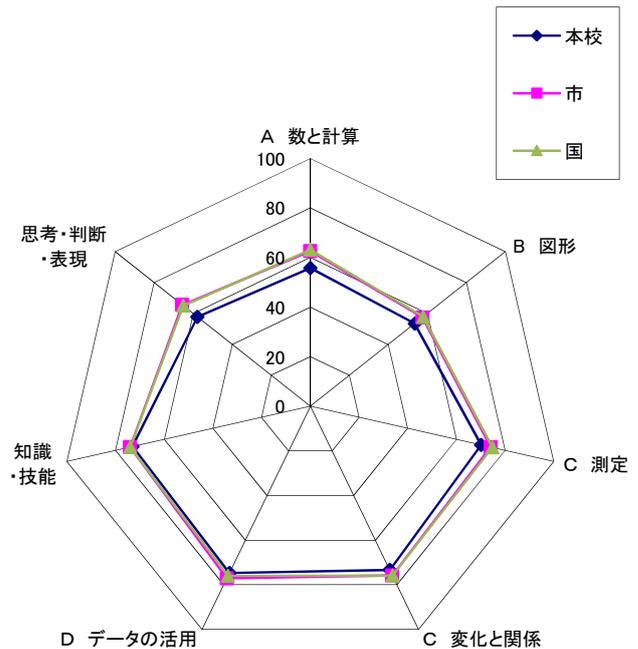
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均より2.8ポイント低い。</p> <p>○文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることがよくできている。情報を相手に詳しく伝えるための記述の仕方を明確にして書く活動を取入れた成果と考えられる。</p> <p>●文の中における主語と述語との関係を捉えることについて、課題が見られる。</p>	<p>・漢字の読み書きについては、ある程度定着が図れているため、今後も漢字スキルを活用した繰り返し学習を行い、指導をしていく。</p> <p>・文の根幹である主語と述語について意識しながら読めるよう指導していく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均より8.4ポイント低い。</p> <p>●資料を用いた理由を聞いて、目的を理解することについて、課題が見られる。</p>	<p>・クラス全体やグループでの話し合いの中で、自分の考えとどう違うか比べながら聞くようにさせ、最後まで話を聞くような態度を身に付けられるように指導していく。説明の内容だけでなく、用いた資料を選択した理由や内容についても注意深く聞くことができるような活動を取入れていく。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、全国平均より9.5ポイント低い。</p> <p>●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることについて、課題が見られる。</p> <p>●目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することについて、課題が見られる。</p>	<p>・互いに書いた文章を読み合い、助言し合うことで相手に伝わりやすい文章を書くことができるようになると考えられるため、そのような活動を多く取り入れていく。</p> <p>・文章を要約する活動では、型や手本となるものを示し、書く手順や表現方法を真似ることから取り組むようにさせ、構成段階で、文章の中心を意識して修正を加えながら、学習を進めさせるよう指導していく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、全国平均より8.4ポイント低い。</p> <p>●目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることについて、課題が見られる。</p>	<p>・文章と資料の情報を関連させて考える場合は、文章の中心となる語を枠で囲んだり、色分けしたりしながら複数の資料を関係付けて読めるように指導していく。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	55.8	62.6	63.1
	B 図形	53.5	57.5	57.9
	C 測定	70.2	74.1	74.8
	C 変化と関係	73.3	75.8	75.9
	D データの活用	74.7	77.1	76.0
観点	知識・技能	73.1	74.1	74.1
	思考・判断・表現	57.8	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均より7.3ポイント低い。</p> <p>○商が1より小さくなる等分除の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することについてはよくできている。計算方法の定着が見られ、少人数指導の成果であると考えられる。</p> <p>●示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することに課題が見られる。</p>	<p>・今後も基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに、児童の状況に応じてやや複雑な問題や発展的な問題を解決する力も身に付けられるように、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均より4.4ポイント低い。</p> <p>○複数の図形を組み合わせた図形の面積を量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることについてはよくできている。授業中に具体物を用いて計算の仕方などを考えさせた成果だと考えられる。</p> <p>●三角形の面積を求めることに課題が見られる。</p>	<p>・図形の面積を求める際に公式の暗記だけになってしまわぬように、なぜこの方法で求められるのか、どうしてそのような式になるのか、話し合う学習を通して面積の求め方を理解のできるような指導をしていく。</p>
C 測定	<p>平均正答率は、全国平均より4.6ポイント低い。</p> <p>●条件に合わせた時刻を求めることに課題が見られる。</p>	<p>・具体物を操作しながら問題を解くという活動を増やす。また、類似の問題に取り組み、問題に慣れることができるような学習活動を行う。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均より2.6ポイント低い。</p> <p>●速さが一定であるあることを基に、道のりと時間の関係について考察することに課題が見られる。</p>	<p>・速さや道のり、時間を求める際に、公式の暗記になってしまわぬように図や数直線を使って自分の考えを表せるように指導していく。また、日常生活の場面に即して考えられるように課題の提示の仕方などを工夫していく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均より1.3ポイント低い。</p> <p>○帯グラフから割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書くことについてはよくできている。授業で表やグラフの読み取りによく取り組んだ成果だと考えられる。</p> <p>●帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題が見られる。</p>	<p>・授業で、一つのグラフの読み取りだけでなく、目的に応じて表やグラフを選んだり、複数のグラフを比較しながらグラフを読み取るなどの活用的な問題に積極的に取り組んでいく。</p>

宇都宮市立緑が丘小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問では、児童の肯定割合が75.3%で、全国平均を1.3ポイント上回る。これは、家庭学習や自主学習の定着を図ってきたものと考えられるが、更に成果を上げるために、工夫された自主学習を紹介し合ったり、予習・復習を行う際に授業の内容を意識することの大切さについて伝えたりして、理解を深めさせたい。

今後も家庭学習を継続して行い、内容や方法を交流するなど、工夫した活動を行っていききたい。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問では、児童の肯定割合が88.7%で、全国平均を10.55ポイント上回っている。これは、授業一時間ごとに学習課題を提示し、終末に、課題に対する振り返りの時間を設けたことによるものと考えられる。

今後も児童1人1人の個性や能力を考慮して、取り組みやすい課題を工夫して提示し、何が分かって何ができるようになったのか、具体的に振り返ることができるよう授業の内容、展開を考え、個々の児童の学びを確かなものにしていきたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問では、児童の肯定割合が82%で、全国平均を8.6ポイント上回っている。これは、児童が学級をよりよくするための話し合いを自主的かつ積極的に進めてきた成果と考えられる。

今後も話し合い活動を効果的に活用しながら、学級をよりよくするだけでなく、自分が努力すべきことへの意識を高めることで、集団の質を向上させられるよう指導していきたい。

●「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度利用しましたか」という質問では、月1回以上、と答えた割合が53.9%で、全国平均を21.1ポイント下回る。しかしながら「学習の中で、コンピュータなどのICT機器を使うのは、勉強の役に立ちますか」という質問の肯定割合は、96.6%と高く、全国平均を2.1ポイント上回っている。デジタル教科書や実物投影機の活用機会が増えたことに加えて、タブレット端末が1人1台導入されたことにより、今後活用機会は格段に増えてくるものと考えられる。

これからも、効果的な活用方法を研究しつつ、情報収集や活用の機会だけでなく、各教科の基礎的な内容の定着や、発表のための提示資料の作成など、様々な場面で活用することができるように指導を工夫していきたい。

●「学校の授業以外に、普段1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問で、30分以上読書している、と答えた割合が27%と全国平均を10.4ポイント下回っている。また、全く読書を読まない、と答えた割合は、21.3%にのぼる。

読書が習慣化していない児童がいることや、学校図書室、地域の図書館の利用に個人差がみられることから、今後は、図書室の利用や、朝の読書タイム、校内の必読図書読破の推奨などを通して、本に親しむ環境を整えていきたい。

宇都宮市立緑が丘小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学ぶ楽しさを実感できるようにする取組	・個人に合った家庭学習への取組	「家で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問では、児童の肯定的回答は75.3%で、全国平均を1.3ポイント上回る。家庭学習に取り組む意識は高いが、国語と算数の正答率を見ると、個人に合った学習課題や取り組み方に課題があると考えられる。
対話的で深い学びができるようにする取組	・ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ、協議して課題に取り組めるようにする。 ・考えることと話し合うことの内容と場を明確にし、集団で話し合いながら思考を高める場面を効果的に設定する。	「5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う授業では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところやちがうところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」の質問では、児童の肯定的回答は85.4%で、全国平均を2.8ポイント上回る。コロナ禍で活動に制限があるが、場や方法を工夫して、意見を伝え合うことでさらに自分の考えを練り上げていく活動に今後も取り組ませたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書くこと」「読むこと」、算数の「数と計算」において全国平均を大きく下回っている。日常生活や資料、図と関連させる問題に特に課題が見られる。	資料や図を用いた学習活動	日常生活での場面や、資料との関連など学習したことを他と関連付けて考えたり振り返ったりする学習を、教科の学習の中で取り上げていく。その際には、自分の考えを書いたり、友達の考えのよいところを見つけ、多様な表現方法を学ぶことができるようにする。